

2019年度第1回放送番組審議会 議事録

開催日時 2019年9月30日(月) 14時から15時
開催場所 三次市防災センター 1階会議室
出席者委員 添田龍彦・重信富子・千崎由博・宗清弘樹・山岡幸子・岩崎積
石田睦子・上野俊英
欠席者委員 中村好宏・前田茂・平岡淳
説明員 (株)三次ケーブルビジョン
新宅代表取締役社長・林常務取締役・幸住管理課長・津田営業課長
坪井技術課長・向井制作課長・日野制作課員

- 1 開 会 定刻になり事務局が開会を宣言。行政関係機関及び住民自治組織団体代表委員の交代を報告。新委員に対して、代表取締役社長が放送番組審議会委員の委嘱状を交付。続いて代表取締役社長が開会にあたって挨拶する。
- 2 会長挨拶 添田会長が挨拶を行ない、放送番組審議会の目的に沿って、多種多様な立場から選出されている委員の皆さんには、それぞれの立場から忌憚のない意見を出していただきたいと述べる。
- 3 審 議 審議に先立ち、7月4日に放送した情報ストリート「あっちこっち三次」のモバイル中継番組『三良坂街ぶら』について、担当ディレクターが資料に基づき企画意図及び番組概要を説明する。(事前にDVDを送付した)
- 会長(司会) 視聴いただいたDVDの内容について、忌憚のない意見をお願いします。
番組の今回の狙いは何だったのか?
- 社 側 ポイントは、生中継ならではの臨場感、地元の人にもなじみのある場所で、歩いていける距離の商店のイベント等を紹介したかったが、実際にやってみると、時間が無くて進行が駆け足になったところもあり、大変難しかった。
- 委 員 三点感じるがあった。一つ目はこの番組で、こういう駄菓子屋さんがある街並みや、そこに子ども達が居る光景を見て、ほっとした。まだ、こういう場所があるんだと知ることができ、知らせる大切さを感じた。二つ目は、生中継でのリポーターの切り返しが見事だった。キャリアを感じた。三つ目は祇園祭の開催日をひと月間違えてスタジオで訂正されていたが、事前準備で、昔のことまで調べられていた為かと思った。以前の日取りがつい出てしまったのだろう。しっかり準備されていることが伺えた。
- 委 員 総体的に、田舎の店の感じが出ていて、大変良かった。ただ、画面を見ていて、カメラの動きが早すぎて目が疲れやすいと感じた。

委員 最近町ブラ番組はたくさんあって、その中でも良かったと思うが、お店の場所がわからなかった。番組資料に、「駅から歩いて行ける距離」とあるが、場所の紹介から始めたら良かった。以前、広島テレビ局が取材に来て放送した時と同じような感じで、結構難しいんだなと感じたことがあるが、それと同じように番組として少し物足りない気がした。

委員 放送時間が短い気がした。紹介する店をもっと増やしたり、祇園祭の説明をしっかりとPRしたら良かった。もう少し時間に余裕がほしかった。

委員 モバイル中継の臨場感が伝わった。店をターゲットにしている、親しみが湧いた。特に駄菓子屋の風景は、懐かしく心が和らいだ。気になったのは、モバイル中継のせいなのか、音声割れていて、聞き取りにくい部分があった点。また、店を移動するときに、間延びした感じがした。少し工夫があれば良かった。

委員 生中継のドタバタ感があったが、隠れ家的な店のPRをする意味では、内容は良かったと思う。10分程度という時間的な制約の中で、3店舗を紹介するのは多い気がした。じっくりと店の紹介をしたり、お客さんや住民のインタビューを交えたりする企画のほうが良かったのではないかと思った。また、店の位置関係が判らなかったので、最後の場面にでも商店街の地図と、紹介した店の場所を示すものがあれば良かったのではないかと思った。

委員 モバイル中継の意味がここにきてやっとわかった。各地で商店が消えていくなかで、三良坂の商店街に、駄菓子屋さんが今もあることに新鮮な驚きを持った。小学生が利用しているなら、今の子がどう思っているのか、どんなものを美味しいと思っているのか、興味を持ったので、そういった点も紹介するようなものがあつたら良かった。モバイル中継は新たな手段で頑張っていると感じた。

会長（司会） 夏休み中ということで駄菓子屋に小学生の姿があつたが、商店街にカメラが向いたときに、ほとんど車が通らない、歩行者も居ないといった状態で、寂しさを感じた。紹介した店には、いずれもお客さんが少なく、経営していけるのかと心配な気がした。

駄菓子屋さんや喫茶店が新しい感覚を持って、店をされているのだなと感じた。地域に根付いて、店舗が継続されればいいなと思った。

社側 モバイル中継というのは、直接今を伝える。ビデオは過去を伝えるということで、私供の番組の中で、直接伝えることは今までになかった。放送の一つの手法として、それが、意味のある伝え方になっているか、どう感じられるか、ご意見をいただきたいと思う。

会長（司会） 臨場感は充分にあつた。音声がかえにくかったり、移動するときに間延びした感じがするのは、生中継のために致し方ない面もある。

- 委員 生中継で臨場感があるがゆえに、商店街を歩き交う人が少なく、車が通らない、閑散としたところが目につくという、マイナス面も合わせ持っている。逆に言うと、それが現実なんだなと思う。
- 会長（司会） そういうところはあるが、テレビで放送されると宣伝効果はかなり高い。近くの店が紹介されたことで、行ってみようかと思ったりする。三良坂独自の祇園祭のことが、前もって放送されたので、かなりの宣伝効果はあったと思う。
- 会長（司会） 「街ぶら」での放送は、今後も計画されているのか。
- 社 側 他の地域であれば、もう少し人が集まる時間帯などを考えないといけない。放送時間帯との兼ね合いを考えないといけない。
- 委員 視聴者として面白いと思えるのは、例えば駄菓子屋の場面であれば、小学生にインタビューしてどんなものが美味しいと思うか聞いたりして、そこに来ている人の人間模様が出てくると、もっと番組に惹きつけられると思う。どんな思いをもって生活しておられるのかに、見る方は引き付けられる。
- 会長（司会） 季節感は、番組の中で充分に出ていた。住民自治組織の立場として、中継してほしいところとか、ありますか。
- 委員 地域によって、宣伝してほしいところはある。定住対策や地域の活性化を進めているが、若い人たちを取り込んだイベントを色々企画している。飛び込みで（中継に）来られては困るが、地域の組織と連携をとって協力していただきたいことは沢山あるので、よろしくお願したい。
- 会長（司会） 放送を見られて、うちにも是非来てほしいという要望はあるか。
- 社 側 4月から毎週中継をしているが、携帯の電波を利用するので、繋がりにくい場所もある。事前に電波状況を調べる必要があり、要望の全部に応じられるわけではない。
- 以前は、スタジオに来ていただいて PR や告知をしていたものを、イベント会場から中継で、練習風景を放送したり、イベント告知してもらおうことができるようになったことが大きく変わったところだ。
- 三良坂の中継は、祇園祭の告知の意味合いが大きく、事前告知のために平日の放送となったため、閑散とした映像になってしまった。タイムリーなことをやっていくのも一つの方法であると思う。
- 委員 二元中継をすることはできるのか。
- 社 側 送信機がもう1台あれば可能だが、現在はないので、できません。
- 委員 お店の思いや人間味の表現という話がありましたが、店長さんの思いが放送されたら、もう少し視聴者の心を引くものになったのではないかと。いろんな店があるのですごいなと思っていたが、人間味が伝わるともっと足が向くのではないかと。
- 社 側 生でやった場合と比べ、編集放送した場合はより正確に出せるかもしれない。生中継ではストレートに出てしまう。視聴者はそこに興味関心を持つ、と

いうこともある。下手かも知れないが、生で、同時刻に、現実をそのまま出していける中継の手法が活かされているかどうか、そこが反省材料としてある。様々なご意見をいただき、感謝したい。ご意見を活かして今後の番組作りをしていきたい。

会長（司会） 皆さんの意見が出揃ったようだ。本日はたくさんの貴重なご意見をいただき感謝する。これで放送番組審議会を終了する。

4 閉 会 事務局が本日のニュース番組「情報ストリート、あっちこっち三次」で、この審議会の模様を放送し、議事録を HP に掲載すること、次回の会議は来年2月とする旨を伝え、閉会した。